

## 谷口喜久子

私のような経験の乏しい者が「現場で子どもを理解するには」という荷の重い題目をいただいてしまい、全く何が書けるか疑問です。今この題目をながめ、短い二年の経験を通して、私が受け持った二年保育四十名ばかりの子どもを、どの程度理解して保育に当されたか、考えてみると、恥ずかしいことですが、正直なところ、子どもを良く理解して保育に当たったとはいえません。

理解しようと努力はしたつもりですが、不十分のままであると過ごしたような気がします。いつも子どもといっしょにいた。そしていっしょに遊び飛び、仲良しだった。何だかそれだけだったような気さえします。未熟さと精神的にもあまりいっしょになりすぎていたために、一歩さがつて子どもをながめる余裕がなかつたかも知れません。また、そうしていても無意識の内に過ぎてしまつたのかもしれません。何だか夢中で過ぎてしまった二年間でした。

それゆえ、今改めて過去を振り返ります。この題目について考えてみようと思いまる、良く知るということは何よりも大切なことのひとつではないでしょうか。同じひとつのことをするにしても、子ども個々によつてそれぞれ異なる仕方、状態を示します。機敏な子、のそのそしている子、幼稚な方法でする子、程度の高いやり方をする子などいろいろです。これは性格や行動についてもいえることです。楽しそうに遊ぶ子、積極的にまた消極的に遊んでいる子、その遊んでいる子をながめている子、他の子の遊びを邪魔したり泣かせている子など、これらの子を、より適切に指導し、良い点はさらににばし、伸び伸びと楽しく社会集団生活の基礎を身につけさせなければなりません。それには子どもを良く知り、いたずらな迂回をすることなく成長するよう指導することが大切だと思います。

入園式の日、初めて子どもを前にして一人ひとり顔をながめていると、みんなそれぞれ不安に満ちた顔をしてこつちを見ています。それぞれ遠つた環境から集つた子どもたち、これからどんな行動、性格、集団への適応を示すか、私も興味・期待・不安など複雑な気持で眺めていると、泣き虫、甘えん坊、きかん坊らしい顔をした子、しつかりしているらしい子など、みんな今日はおとなしく、そして行儀が良く、借りて来た猫のよう。この子たちが、みんなそれぞれ地を出したらどんなになるかしらと思わず考えずにはいられません。この子どもたちと毎日幼稚園で生活していると、早く自分の本当の姿・性格を出せる子がいるかと思うと、なかなか殻を被つていてどんな子なのかわからない子もいます。おとなしい内気な子かと思つていると、なかなか積極的な活発な子であつたり、初めすぐ目立つた子が段々影が薄くなつたりそれは様々です。しかし私たちは早く本当のその子の姿を知る必要があります。知らないままに指導した場合、それが(+)になつている場合もありますが(-)の力となつている場合もあります。そして、また、自分中心だった家庭の生活から幼稚園という、子どもが且つて経験しなかつた、ある種の規律のある大グループの中で生活して行くのですから、円滑にその中に入つて行ける子もあれば、種々の抵抗を示す子もいます。このことは子どもの育つた家庭での生活状態や、

環境条件に大きく左右されるものですが、私たちは適切な指導により、子どもに餘計な心理的負担をかけることなく、集団生活にうまく適応できるよう導いていかなければなりません。そのためにも子どもを良く知ることが重要になります。

そこで子どもたちを、保育に携わりながら実際に理解する方法はいろいろあると思いますが、まず最も手軽に実際にできることは、子どもを良く観察する、すなわち良く見ることだと思います。観察の対象は常に自分のまわりについて、しかも場所時間を見わない（もちろん子どものいる間のことですが）。しかし実際には多くの子どもの世話を追いまわされ、あまりに多くのいろいろなことが目の前を通過するので、第三者が観察するような工合にはいきませんが、長い時をかけ、少しずつ子どもの観察を積み重していくことによって理解していくことはできると思います。事実、観察対象が一人であればどんなに容易であろうと思うことがたびたびあります。入れ代り立ち代り接触して来る多くの子ども、目と手と頭がもつとあつたら十分にしてあげられるのに、いつもくやんでしまいます。それゆえ早急にあの子はこうだというようなことは

云えませんが、長い時間をかけてゆっくり見極めたその子のイメージは、短時間では見られないような、ごくかくれた点をも加えることができたりします。しかし対象はオーミステークとはいうことのできない、生きた子どもですから、私たちはできるだけ早く知る必要があります。そのためには子どもが早くその生地を出せるような環境を作つてあげねばなりません。楽しい幼稚園、子どもが本当にそう思えるような雰囲気を作つてあげるのが私たちの仕事のひとつです。そして子どもの生活上、大きな割合を占める遊びを、自由な雰囲気の中で、伸び伸びとさせて、その中に現れる子どもの姿を良く理解し、その中で、集団生活に必要な基本的な事柄や習慣・健康に関する習慣その他物の扱い方や種々の幼稚園生活上の約束を体得するよう指導しなければならないと思います。そこで私は一学期の間は、比較的事務なども（遊び以外のこと）自由にし、集団の中で上手に遊べるようになることに力を入れてみました。もちろん私もいつしょになつて遊びました。誘われなければはいって来ないR子。この子ははいりたそくにしていつも見ていましたが、自分からははいって来られない子でした。

そして私の気を引こうとするような態度をよく見せました。あまり家で手をかけられ過ぎ自分中心に生活が営まれていた家庭の子でした。そうかと思うと女の子よりもむしろ男の子と活発に遊ぶE子。この子は男子の人気者。すぐ癪を起し、椅子などを振りまわし、眞赤になってあばれるM。この子は段々我慢することを覚えました。この性格はおとうさんそつくりでした。乱暴なことの好きなYとH。ショット中喧嘩をしていました。Yは体も大きく力も強い、力のあり余っている結果が喧嘩になつてしましました。でもこの子は、小さい子には優しく正義感も強く、さっぱりした性格でした。Hの方は身軽で、破壊性が強く、一度されたことを五度返すような執念深い面を持っています。でも反面、とても親切で人が困っていると、いろんな物を貸してあげたり、手伝いや片づけなどを大変良くする子でした。私はこの子の乱暴で執念深い面を何とか良くしようとして、良い点をも一時（一）にしてしまったことがあります。このことは、今でも、私の心に深く、食い入っています。

また、観察の場面は、たんに遊びの場面のみではありません。製作、話し合い、絵

を書いている時も、その他幼稚園にいる間はいつもです。遊びの時、元気だった子が製作となると意気地がなくなり、なにもしないかたり、そうかと思うと急に元気になります。生き生きとして来る子、落ち着きが無く、注意散漫で、途中で投げ出してしまいます。子、なんでも丁寧にきちんと仕上げる子など、種々様々です。絵を書く時、自分からは書かないで、常に上手だと思う友だちの絵を真似て書くH。その子がおかあさんの参観の時、絵を書きました。いちいちおかあさんにお伺いを立てて書いています。あまりおかあさんが子どものできばえに口うるさくいう結果でした。

しかし子どもの性格はたったひとつの画面のみで全部が現われるわけのものではありません。場合により時により状態により、現われ方が違います。それゆえ、その時々により理解をしなければなりません。たとえば、製作でも、興味の乗つた時は、傍で何をしていても平気で自分の仕事をしているのに、それが遊びたりなかつたり、外に向つた興味を中断してさせたような場合は、全々駄目です。それゆえ、その時の時を適切に判断し、導く必要を私たちは負わされていますが、これがなかなかむず

かしく、私のような未熟な者には、反省の結果、しまったと思うばかりです。しかしことに良いといった時は、最上の喜びでもあります。

子どもを理解する場合、たんに子どもの観察だけでは不明な点がたくさんありますし、また理解し得ない部分も場合もあります。そのような場合、おかあさんとの話し合いや、知能テスト、家庭調査表などの記録を参考することによって理解できる場合があります。また子どもと話しをするということは、大変子どもを理解するのに役立つものだと思います。家の母親の教育熱心が、誤った方向に向いていたため、幼稚園が休息の場となつていていた子。義理の祖父母の仕打ちがひどいため、被害妄想症のようになり、ちょっと友だちが触つても、私をいじめようとしたとか、いじめたとかいに来たどこか暗いところのあつたM子。

知能テストの結果、知能発達の遅れていたための行動であったなど、観察で得た結果の裏付けとなつたり、理解を深めるために重要な役割をはたしてくれました。

けれども、実際に保育をしながら子どもを理解することは重要なことです。が大変なりとあります。相手が多い上に、その

行動・性格がいろいろの形になつて現われて来るため、また、子どもの大まかなイメージを捕えるとともに、その時その時の子どもの感情をも理解する必要があるため、短時間では子どもを理解できるものではありませんし、また、生半可な理解でその子を理解して行く、そして子どもに社会集団の適応性を与えていかなければならぬのです。その上、子どもは次第に成長していくきます。以前成功したことが次の時にも同じ結果を生むとは限りません。子どもはもつと先の方へいってしまつていることもあります。ですから私たちの子どもに対する理解も進まなければなりません。ゆえに子どもの観察は常に行なわなければならないし、常に理解を深めていかなくてはならないのです。そして、より良い指導を子どもに与えていかなければならないのではないでしょうか。

とりとめのない、題目からはずれたような雑感になつてしましましたが、思いつくままに書かせていただきました。